

**なぜ復興が進まないのか？**

「なぜ復興が進まないのか？」と聞かれて、「私も復興の仕事に従事しています。」と言うと、大抵の人は納得します。しかし、今回は私の仕事能力についてではないので、本題に入ります。今回は私の仕事を通して、復興が進まないことについて述べます。

私の仕事は、防潮堤の建設です。まず、防潮堤について説明します。宮城県は、明治の三陸大津波のシュミレーションをして、30年～100年に1度来る津波に対して、それに堪える防潮堤を、海岸線に設置することを計画しました。これをL1防潮堤と言います。計画高さは、気仙沼市ではTP+7.0m～14.7mです。

気仙沼市の漁港海岸では、津波で被害を受けて、災害復旧で建設する防潮堤が9箇所、新規に防潮堤を建設する箇所が23箇所、計32箇所が計画されています。

**【1箇所の防潮堤建設にかかる月数は】**

測量設計業務委託（6月）→用地買収（6月）→背後の市道の付替え、水道等の移設（6月）→請負工事（12月）で、どんなに順調に行っても、30月（2年6月）かかります。

しかし、工事が遅れる要因は、たくさんあります。

**【遅れる理由その1—用地買収と相続】**

防潮堤の建設は、漁港海岸の傍です。用地買収区域内の土地所有者の方は、津波で亡くなっている方もいます。また、既に亡くなっているも、登記簿が相続されていない土地もあります。用地買収は、亡くなられた土地所有者の方の相続人全ての人に対して、相続の手続きをしてもらい、「承諾書」をもらわなければなりません。中には、子供が知らない間に、亡くなられた土地所有者が再婚している、という例があります。土地の相続は容易には解決しません。（個人的な興味は別として）

**【遅れる理由その2—建設会社の工事辞退】**

現在、被災地は建設工事ラッシュです。漁港施設、海岸、道路、河川、土地区画整理、宅地造成、下水道等の工事が行われています。そして、国や県、各自治体が一斉に工事を発注します。発注者としては、建設会社に落札をしてもらわなければ、工事が出来ません。それでまた、何カ月も工事が伸びます。三陸地方は、正にゼネコンにとっての買い手市場です。

**【遅れる理由その3—作業員や建設資機材の不足】**

これだけ工事が発注されると、当然に、現場の作業員が不足します。資材（生コンや採石、コンパネ等）も不足します。資材はこの間で、10%以上値上がりしました。建設機械（バックホーやダンプトラック等）も不足しています。工事に着手をしても、進捗は進みません。請負工事の工期は、1年～2年延伸するのが当たり前です。

【遅れる理由その4—技術系職員の不足】

32 箇所の防潮堤の建設の仕事は、係長の叱咤激励を受けながら、3 人で担当しています。総事業費は、私の試算では約 300 億円です。主な仕事は、測量設計業務委託、用地買収の資料作成、背後の市道の付替え、請負工事の監督員です。

その他に、地元説明会の開催や、JR・国・宮城県・市の土木課、企業者（水道等）等との調整があります。また、宮城県から市に対して、事業についての調査依頼が、2 週間に 1 回ぐらいの割合で来ます。これらについての回答の資料作り作業だけでも、大変です。

現在気仙沼市には、約 140 人の職員が県や各自治体から派遣されています。それでも、まだ 70 人が足りません。それに対して、市の今年度の土木技術職の採用予定は 2 人です。

ただし、私には救いがあります。それは、私の任期は、来年の 12 月までです。私のやりっ放しの仕事を引き継いだ人は、多分パニックになるだろうと、今から心配しています。

（結 論）32 箇所の防潮堤の建設の仕事は、とても平成 27 年度までには終わりません。

どんなに総力で取り組んでも、後 5 年、長ければ 10 年はおかかると思います。

（悩 み）果たして自分の仕事が、被災地の復興に役立っているのだろうか。安倍政権の国土強靱化政策の一翼を担っているだけではないのか？

（反 省）こんな重大な時に、土日の休みに、鉄道や自家用車で飛び回っていてよいのだろうか？

【写真は、只越漁港海岸です。私はここの防潮堤建設を担当しています。】



【別紙は、「河北新報」2013 年 6 月 22 日付けの 1 面の、防潮堤についての記事です。】